

## 業界短信

(21年3月1日～3月31日)

### JFE鋼材、穴開け機2基稼働（産業新聞、3/6）

JFE鋼材㈱（中央区八丁堀、吉里勉社長）は、大阪事業所・大阪工場で穴開け事業を行う。土地・建屋購入によりC棟（約4000平方メートル）を新設、穴開け機2基を設置し、このほど稼働を開始した。穴開け加工は需要家からの要求も強く、また鉄橋の床板として合成床版が主流となっていることから、需要量の拡大が見込まれる。同事業所の月間生産能力は約3500トンで、橋梁、鉄骨、鏡板、造船、産機など各種の切板加工を行っている。

### 和東産業、プラズマ切断機更新（産業新聞、3/10）

和東産業株（北九州市八幡西区、陽博充社長）はこのほど、プラズマ切断機をリプレース、最新鋭機を導入し、本格稼働に入った。これにより、切断スピードのアップによる作業の効率化と製品の高精度加工を実現した。4年前から設備更新を行っており、今回のプラズマ更新もこの一環。これまでにNCプレーナー、NCガス切断機、NCプラズマ切断機など相次いでリプレースしており、設備更新計画は9割方完了した。この結果、同社の設備は、NCプレーナー1基、レーザ1基、プラズマ2基、NCガス1基、アイトレーサー1基、シャーリングマシン3基、開先機2メートルタイプ、固定タイプ各1基、自走式2基といった最新鋭機で構成されている。同社は47年の社歴を持ち、月間加工量は1400万トンで、向け先は橋梁、建築等。

### 丸久鋼材、CAD室専用棟新設（産業新聞、3/10）

丸久鋼材㈱（福岡県久留米市、丸山雅成社長）は、本社工場の改造を行っているが、CAD室の専用棟を新設する。加工設備のネットワーク化の一環。専用棟を設けることで人員配置の効率化を促す。同社は現在、加工工程の効率化を目的に、本社工場の加工設備レイアウトの変更を行っている。同社は本社及び唐津営業所を拠点とし、筑後地区及び佐賀県を営業エリアにしている。H形鋼やコラムの切断・開先加工・販売、切板、一般形鋼の加工・販売を行っている。

### 京浜産業、造船向け厚板加工拡充（鉄鋼新聞、3/19）

京浜産業㈱（横浜市神奈川区、酒匂雅信社長）は、造船向けを主体に厚板の溶断、各種鋼材の加工・販売を手掛ける追浜工場に設置した最新鋭の大型レーザが本格稼働を開始した。既受注分の船舶建造量は引き続き高水準で、造船用部材となる溶断切板の部品点数も月産3万ピースにのぼる。同社は、厚板・極厚板の溶断から機械加工、大型重量鋼構造物の製缶、熱延加工のレベラー加工、折り曲げといった各種鋼材加工から、エン

エンジニアリング事業を手掛ける。追浜のほか久里浜、戸塚の生産拠点を持つ。

#### 青柳鋼材興業、普及促進団体から特別賞（鉄鋼新聞、3/19）

青柳鋼材興業(株)（千葉県船橋市、高橋雅雄社長）が独自に開発した、携帯電話を使って在庫の照会や厚板の出荷、工場における作業工程進捗の把握など各種業務処理・生産管理システムが、モバイルコンピューティングの導入で高度なシステムを構築し、成果を上げている企業を対象に、表彰される「MCPCアワード2009」の特別賞に認定された。同社の「携帯QRを利用したモバイル生産支援システム」は、携帯電話を端末として利用し、QRコードでデータ管理する仕組み。自社開発のシステムで、4年ほど前から社内で研究・開発に着手。昨年より運用を開始している。社内的には作業効率上がり、対外的には工程進捗度合いのリアルタイム報告や異材混入の防止、トレーサビリティといった信頼性に寄与している。在庫の照会と機種別作業指示書とがリンクしているため、ヒューマンエラーが起らず、入り側から出側まで一貫して管理できる。このシステムがモバイルコンピューティングの普及促進団体であるMCPCに評価され、特別賞（6社）にノミネート、3月19日に表彰された。

#### 日鉄神鋼シャーリング、多目的ライン導入（産業新聞、3/20）

(株)日鉄神鋼シャーリング（大阪市此花区、木村秀明社長）は、1億5000万円を投じて、本社工場に多目的シャーリングラインを導入する。同設備は小物用のガス溶断機—ピースマーク印字・読み取り装置—寸法・形状測定器—自動バイリング設備で、構成する自動一貫ラインで、今年8・9月に導入作業を行い、10月から稼働予定。ラインの加工能力は月間2万枚で、稼働後、小物材や矩形材の切板の生産性向上と省力化が図れる。

#### 庄内シャーリング、生産効率高める（産業新聞、3/20）

(株)庄内シャーリング（山形県鶴岡市、池田恭平社長）は、4月に新工場棟を建て、ステンレスと薄厚の普通鋼厚板の加工を集約し、生産性を高める。製品ヤードも兼ねており、在庫を移して、既存スペースを確保し、プラズマ切断機増設と生産の効率化、製缶の加工再開を進める。電子機器関連向けなどステンレスの需要が急減する一方、建築向けなど普通鋼厚板の受注は比較的堅調。製缶やビルトHなど普通鋼部門を強化し、景気低迷期を乗り切る構えだ。切断から曲げ、溶接、矯正まで自社で一貫して行っている。ここ数年続けてきた設備の増強投資は新工場棟の建設で一通り終了する。

#### 京浜産業、重電向け厚板溶断効率化（鉄鋼新聞、3/25）

京浜産業(株)（横浜市神奈川区、酒匂雅信社長）は、重電プラント向け厚板・極厚板の溶接作業を効率化するとともに、近く開先加工能力を拡充する。久里浜工場のガス溶断機2台のリプレースに伴い、自動印字・罫書装置とピアス孔用ドリルを設置。夜間の無人時間帯を活用し、トータルリードタイムを短縮する。7月以降の発電プラント関連の受注に合わせ、6月までに構内整備する。

### インスマタル、CADセンター稼働（産業新聞、3／26）

（株）インスマタル（千葉県浦安市、福井英人社長）は、北海道標茶町に設置したCADセンターを4月中旬から稼働開始する。浦安本社や八街工場と光通信網で結び、CAD工程を強化する。同センターはCADによるプログラム工程を専門に担当する。CAD工程の拡充により、短納期化など生産性の改善を見込むだけでなく、3次元CADを用いた視覚的な加工提案を行う営業ツールとして活用し、厳しい環境下での受注確保につなげたい考えだ。